

季節を知つたら
暮らしが楽しくなつた

（第九一号）

秋分 九月二三日



モクズガニ採り

いつもなら暑さ寒さも彼岸までというのが、この時期の挨拶ですが、今年は記録的な猛暑で、季節は例年の二週間遅れとか。今年の暑さは秋分のお彼岸を過ぎて、寒露の頃まで長引くのでしょうか。

夏の終わり頃から秋にかけて、五十鈴川の新橋あたりの川面にブカリ。ブカリと浮かぶ「浮き」が出現するのをご存知でしょうか。これはゴミではなく、モクズガニ採りの仕掛けの浮きなのです。

モクズガニは、イワガニ科のカニで、こぶし大ほどの甲羅をもち、鋏をもつツメや脚などに濃い毛が密集していることから藻屑をつけているようだとこの名があります。河川改修などで姿を消したところも多いといいますが、この五十鈴川にはまだ生息しているのです。なかなかの美味と知られ、京都の料亭あたりでは高価な値段で取引されると聞きます。

宇治地区でも、四角いカニ籠にサバの頭など魚のアラをエサにして、瀬に沈めておくモクズガニ採り、通称毛ガニ採りを楽しみにしている人たちがいます。先日見にいってみると、カニ籠にもぞもぞと動くモクズガニの姿が。一匹かかるいました。小さな魚や鯉だけでなく、五十鈴川の豊かな生態系を目の当たりにしたように思いました。毛ガニは各家庭ではみそ汁や雑炊にして食べるそうです。

そしてモクズガニは秋から冬にかけては産卵のため、海へ下ります。五十鈴川の毛ガニたちも雨が降って水量が増した日に、まるで波に乗るよう川を下っていくそうです。今年は猛暑のせいで、今のところ九月になつてもまとまつた雨が少ない日々、秋の出水に毛ガニたちが乗つていくのも少し遅れるかもしません。

文 千種清美